

「お仏壇でのお経の唱え方 その5」



令和3年11月



寺
心
讚
恵

発行 〒610-0343
京都府京田辺市
大住八河原九
宿谷真治
電話 0774-62-3137

五月から寺報にて「お仏壇でのお経の唱え方」を解説しております（あくまで両讚寺・恵心寺の宗派である浄土宗のお話になります。他宗はこの限りではないことご注意ください）。
今まで、仏間に入る時の心の持ちよう、お線香の作法などをお伝えしてきました。
さて、お線香とともにお仏壇をお祀りする際に欠かせないのがローソクの灯りです。
法事やお念仏を称える時、何も意識せずにローソクに火を灯しますが、一体なぜローソクを灯すのでしょうか？
その答えを導き出す前に、先ず、私達の普段の生活はどういったものでしょうか。
私達は生活の色々なやり取

りの中で、嬉しい、悲しい、怖い、イライラする、損、得、勝った、負けたという場面に遭遇してしまいます。
むしろ、遭遇させられているのかもしれないし、自ら進んで遭遇しに行っているかも知れません。
実は、それが、無意識のうち繰り返されると、喜怒哀楽や損得感情に心が支配され、恨みつらみや嫉妬、怒りの多い人生を歩んでしまうということになります。
それを仏教では一言で「闇」言うことがあります。
心の中が色々な雑念に埋もれてしまい、まるで真つ暗闇の中をさまよっている状態のことを言います。
ところが、その「闇」の中で

も、年忌の時、京都のお寺を参拝する時、お盆やお彼岸など、縁あって思いがけず仏様の前に座るといふ時もあります。
ある本には次のように書かれています「私が仏様の前で礼拝する姿の中には私の心の中にある仏心が動き出して、私を仏様に近づけていこうとしているものがあると云わねばなりません」。「仏様の前に座って礼拝する私は、仏様に動かされている私であります。暗闇の心の中から仏心を表し出すことは、仏様の力が私に加えられるからであります」。
もし、お時間がある方は、夜にお仏壇の前で部屋の明かりを消して、ローソクにだけ明かりを灯してみて下さい。
お仏壇の仏様とご先祖様のお位牌がこちらを向いていることでしょうか。
これが本来の姿です。
では、その灯りを消してみて

下さい。

真つ暗で何も見えない状態になると思います。

これが、普段暮らしている雑念の中の世界です。

何度か灯したり消したりを繰り返してみると、「灯り」というものが、同じ目の前の空間の意味をも変えてしまうことに気付くと思います。

この「灯り」こそ、仏から私達にもたらされる作用を表しています。

つまり、私達が明かりを灯すのではなく、「仏様が私達を照らす為に、明かりをとますように働きかけて下さっている」というのが本来のあり方なのです。

その心持ちで、毎日お仏壇にローソクと線香をお供えすることが出来れば、もはや仏教の中級者を自負出来るのではないのでしょうか。